

（ 檀原のおふさ観音 「風鈴まつり」 開催される ）

檀原市小房町の「おふさ観音」、正式には高野山真言宗別格本山 観音寺という。「おふさ観音」の名は、江戸時代に土地の娘「おふさ」さんがこの地で観音様を奉りはじめたのが起源といわれている。

本尊は、十一面観音で、元々はからだの健康を授かると言われていたが、近頃はボケ封じ霊場としても知られている。

3年前から、毎年7月1日～8月31日まで、「風鈴まつり」を開催。

チリン、チリンと涼しげな風鈴がかなでる透明な音、風が吹くと一齐に鳴り出す。100年ほど続く地元の「観音講」の人達が寄贈した鉄製の岩手南部風鈴、江戸風鈴、清水焼の風鈴、沖縄の琉球風鈴、小田原風鈴など、2000個の風鈴が風に揺れる。

密門裕範副住職は「風鈴は、鐘の音が魔を払うという教えから生まれた。災いを防ぐとされている。少しでも涼感を感じて下さい」と説明する。

境内には四季折々の花が咲き、なかでもイングリッシュローズを中心としたバラが約1000種、ハーブが400種、鉢植えに植えられている。

「花まんだら」の寺としても親しまれていて、春と秋には「バラまつり」が開催されて、大勢の人で賑わう。
(上田)



おふさ観音の「風鈴まつり」

（ 「紀伊山地の霊場と参詣道」世界遺産登録記念 特別展「祈りの道～吉野・熊野・高野の名宝～」開催 ）

平成16年8月10日から9月20日まで、大阪市立美術館（大阪市天王寺区）で、特別展「祈りの道～吉野・熊野・高野の名宝～」(主催：三重県、奈良県、和歌山県など)が開催されている。

平成16年7月、日本固有の山岳宗教である修験道の霊場「吉野・大峰」、自然崇拜を起源とする神仏の霊場「熊野三山」、真言密教の霊場「高野山」の3つの霊場が、「紀伊山地の霊場と参詣道」という名称でユネスコの世界遺産に登録された。

国宝・重要文化財約100件を含む、250件の名宝をテーマに分けて展示している。

「吉野・大峰と修験道の遺宝」では、蔵王権現の憤怒の姿の尊像、金銅仏、木彫像、天川弁才天曼荼羅図などがみられる。

「高野山町石道と高野山の名宝」では、山麓から奥之院に至る高野山町石道の資料と、「山の正

倉院」と呼ばれる高野山の魅力を紹介している。

「熊野信仰と三山の遺産」では、熊野信仰の歴史と文化を物語る神仏習合の美術品や、奉納された古神宝、古文書の名品がならんでいる。

(上田)



大阪市立美術館正面